

真のタックスペイヤーをめざす

UENO

迎春



小林会長

小林署長



新春号

NO.465(1月号)



公益社団法人
上野法人会

<http://www.uenohoujin.or.jp/>

新春対談



新年を迎えて

司会 明けましておめでとうございます。

署長・会長 おめでとうございます。

司会 本日の司会は、広報委員を担当しています中込が務めさせていただきます。宜しくお願い致します。

初めにお聞き致します。昨年いろいろなことがございましたが、特に印象に残った出来事はございましたでしょうか。

署長 スポーツの分野で多くの日本人選手が世界の舞台で活躍しました。記憶に新しいところでは、錦織圭選手の全米オープンテニス準優勝、そしてツアーファイナル出場という日本テニス界初の快挙がまずあげられます。また、ソチオリンピックでは、フィギュアスケートの羽生結弦選手が金メダルをとり、ジャンプ競技では流行語にもなった「レジェンド」葛西紀明選手が銀メダルを獲得しました。女子ジャンプの高梨沙羅選手は、オリンピックのメダルこそ逃しましたが、ワールドカップでは15勝をあげるなど大活躍でした。世界の舞台ということでは、3人の日本人がノーベル物理学賞を受賞したことも印象深い出来事でした。

また、年末にも各地で大雪が降りましたが、自然災害も多かったですね。そういった中でも、一番記憶に残っているのは2月の大雪です。その当時、私は甲府税務署にいましたが、2月8日に10周年振りという大雪が降りました。この時は60cm位でしたが、その翌週の2月14日にはこれを大きく上回る114cmという観測史上最高のもので大雪が降りました。この大雪で電車や車が立ち往生し、停電した地域や孤立した地域もありましたが、あまりの大雪でマスコミも入れず、その実態を十分報道できなかつたほどでした。

JR中央線は4日間位、身延線は6日間位止まり、車中で数日間過ごされた乗客もいたようです。中央道も開通するのに3日ほどかかり、物資輸送もままならず、スーパーやコンビニに行っても食べ物売り切れている状態でした。

ビニールハウスも大きな被害を受け、収穫間近の野菜や果物が駄目になったり、果樹も折れたりして大変な被害でした。

この大雪直後の2月17日は、たまたま確定申告の初日に当たっていたのですが、甲府税務署では職員が6割位しか出勤できず、相談体制を変更したり大変でした。職員が殆ど出勤できず相談もできない税務署もありました。そういう状況にも関わらず、少しでも早く申告を済まされたいということで150人を超える納税者がおみえになりました。

会長 今、小林署長もお話しされましたが、私も「自然災害・異常気象」ということが強く印象に残っています。東京でも2月8日は45年ぶりという27cmの積雪があり交通網が大混乱となりました。また、8月には、集中豪雨により広島県で大規模な土砂災害が発生したことや9月には御嶽山の噴火があり多くの方が亡くなられるという自然災害もありました。四国では徳島県に大雪が積もったことなどもありました。東日本大震災から3年が経ちますが、なにか、異常気象や自然災害が凄まじい勢いで日本列島に押し寄せているような感じがしているところです。

嬉しかったことは、一昨年の富士山に続いて「富岡製糸場」が世界遺産に登録されたことです。後に木造れんが造りの建造物3棟が国宝に指定され地元では二重の喜びでした。

また、3月14日に宇都宮線・高崎線と東海道線を直通運転でつなぐ「上野東京ライン(東北縦貫線)」の名称で上野が先となったことは上野の皆さんの熱意と頑張りが実ったものと思います。

小林署長からもお話がありました、「青色LED」の開発でノーベル物理学を受賞されたことはとても喜ばしいことです。「人類に最大の利益をもたらす発明」として認められたことで日本の「研究・開発力」が評価され、誇らしく素晴らしいことだと思います。

年末には「総選挙」もあり、慌ただしく1年が過ぎ去ったという印象です。

司会 新年を迎えて、今年は「未年」ですが、「未年」にはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

署長 今年は「乙未(きのとひつじ)」ですが、乙という字は、草木の芽が外界の抵抗が強いので、まっすぐに伸びられず曲がっている形を表わしているのだそうです。種子が発生の氣を得て、皮は破ったけれども、まだ地上に出ることができず、しばらく地中にかかっている状態ということです。羊というと「大人しい」とか「やさしい」というイメージがありますが、群れをなして行動するので、「家族の安泰」や「平和」を表わすようです。

そういうことから考えますと、アベノミクスの効果は徐々に出てきているのですが、「一気に外に出られないでもう少し辛抱してください」という年になるのではないかとイメージを持っています。早く、景気回復を実感できるようになると良いのですが。



世界遺産「富岡製糸場」



～新春対談～



←日本固有のブドウ品種「甲州」



会長 小林署長は、なかなか上手な表現をされましたが、景気回復はあと一步のところですね。特に我々の地域の多くの中規模・中小企業の皆様方はまだまだ景気回復の実感がないということ、また、急激な「円安」の進行の結果、仕入価格の上昇があるものの販売価格になかなか転嫁できないということがあります。製造業を中心とした輸出産業には、円安はプラス効果といえますが、台東区内の多くの企業は商業で、「商業の町台東区」ですのでその点で必ずしもプラスとはいえないと思います。しかし、円安は外国人観光客が増えますので、その面では上野・浅草は潤うと思います。いずれにしても経済は少しずつ回復してくるのではと思っていますが。

羊のイメージはというと、私は子供の時、疎開先で山羊のお乳のお陰で丈夫に育ったのでとても身近な存在の動物と感じています。去年は「午年」で私は年男だったのですが、私のような「午年」はじゃじゃ馬か暴れ馬かといわれるのですが、一つ年下の「未年」の方は、温厚でやさしいという方が多かったように思います。未年にはそういうイメージがありますね。

ご出身地やお仕事について

司会 小林署長にご出身のことなどをお聞きしたいのですが。

署長 出身は、長野県の望月町、現在の佐久市です。旧中山道の25番目の宿場町で、平安時代には御料牧場があり、朝廷に馬を差し出していました。全国屈指の名馬の産地だったそうです。8月15日に行われる火祭り「榊祭り」が有名で、数百人の若者が長さ2m位の松明に火をつけて山を駆け下り、千曲川の支流の鹿曲川に火のついた松明を次々に投げ込みます。さらに、榊を立てた神輿を地面に激しく叩きつけたり、回したり、水をかけたりしながら深夜まで町内を担ぎ回り五穀豊穰や無病息災を祈るといふ、荒々しくも幻想的な火祭りです。

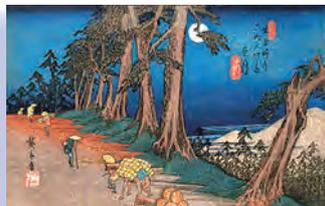
司会 各地にはいろいろなお祭がありますね。

ところで、今回たまたま、署長も会長も「小林さん」ですが、ちなみに、苗字について2013年に保険会社で調べたものがございまして、署長のご出身地の長野県では「小林姓」が1位となっています。山梨県では2位、新潟県で3位、全国で8位となっています。

署長 そういえば、小学校の時、クラスに小林姓が5人もいました。

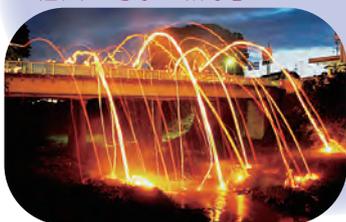
会長 私も同じクラスで必ず小林姓の人がいました。

風情ある望月宿の街並み



歌川広重「木曾街道六十九次・望月」

信州の奇祭「榊祭」



重要文化財・真山家

司会 それでは、小林署長に今までのお仕事についてお聞きしたいのですが。

署長 前職は、先ほどもお話しましたが、甲府税務署の署長でした。山梨県は、夏暑く冬寒いと言われて赴任しましたが、着任直後にいきなり40度を超す暑さを経験しました。昨年の甲府は猛暑日が31日、真夏日が88日も続きました。しかし、平均気温25度以上の日は14日しかなく、東京の39日に比べると3分の1位でした。朝夕の寒暖差が大きいのです。日中は日差しも強く非常に暑いのですが、夕方以降は気温が下がるので、家ではクーラーも使わずに過ごせました。この朝夕の寒暖差の大きさと日照時間の多さがワイン用のぶどうの生産に向き、山梨は昔からワイン造りが盛んであったということです。近年、国産のワインが国際的なコンクールで数々の賞を受賞しています。山梨県産の「甲州」というぶどうから作られたワインが昨年、ロンドンの権威あるワイン雑誌が主催する国際コンクールで日本のワインとして初めて金賞を受賞しました。このワインのぶどうの産地である茅ヶ岳山麓の明野町は1年間の平均日照時間が2,625時間で日本一です。有名なボルドーは約2,000時間だそうで、それを上回っています。「甲州」というぶどう品種は、OIV(国際ブドウ・ワイン機構)に登録されている白ワイン用のぶどう品種です。EUに輸出するワインのラベルにぶどう品種を表示するためには、OIVに登録してもらうことが必要で、「甲州」は平成22年に登録されました。また、一昨年の7月に国税庁が告示によりワインの地理的表示として「山梨」を指定しました。これにより、「山梨」というワイン産地としての地理的表示(原産地表示)が知的所有権として認められ、保護されることになりました。一方で、「山梨」を表示するためには、山梨県産のぶどうを100%使用した、山梨県内で醸造し瓶詰めしたワインであること、山梨県ワイン酒造組合が定めた「官能検査」に合格することなどの厳しい条件が設けられています。

「和食=日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され海外で注目を浴びていますが、和食に合うお酒として日本酒や日本産ワインも同じように注目されています。山梨ブランドのワインにもスポットライトが当たることを期待しています。

会長 日本のお酒が海外に紹介され、また、国産ワインも国際的に認められ輸出産業となっていくのは喜ばしいことですね。それにしても、小林署長は甲府にいらっしゃったとのことですが、ワインへの造詣がとても深いですね。感銘しました。

署長 実は、平成25年10月に山梨県知事より「やまなし大使(観光大使)」を委嘱されました。山梨県のサポーターとして、山梨の魅力を外に発信し山梨ファンを増やすお手伝いをしています。甲府の前は、広島県にある酒類総合研究所(旧醸造試験場)に勤務していました。また、国税庁酒税課に9年間勤務し、税務大学校では酒税・酒類行政制度等に関する研究もさせてもらいました。自分でも、お酒とは縁が深いのではと思っています。署長としては東京上野署が4署目となりますが、法人会をはじめとする関係団体の皆様が地域のリーダーとして、税務行政のサポーターになってくださっていることを非常に有難く、また力強く感じています。

中立広報委員



小林会長

小林署長



上野のこと・法人会のこと

司会 東京上野税務署に着任前と着任後で上野のイメージはどうでしたか。

署長 初めて東京に来たのが50年位前、小学4年生の時でした。降りた駅が上野駅でした。母方の叔父が東京に勤めていて初めて1人で蒸気機関車に乗って上京しました。上野公園で動物園や科学博物館に行き、はとバスに乗って浅草寺や東京タワーにも行きました。今気がつきましたが、東京タワー以外は全て台東区ですね。大学は東京でしたから帰省はいつも上野から信越線で帰っていました。「峠の釜めし」を買って電車の中で食べるのが楽しみでした。そういうことで上野は東京の玄関口というイメージがありました。

着任後は、上野公園をはじめとして緑が多く、博物館や美術館などの文化施設も多くある一方で、アメ横やジュエリータウンのような活気溢れる商店街や飲食街があり、谷根千のような古い街並みもあるいろいろな顔を持つ街という印象を持ちました。

甲府にいた頃は署長室から富士山が見えましたが、上野署でも不忍池の前で緑が多く自然に囲まれていてほっとします。

司会 小林会長にお聞きします。昨年10月に法人会の全国大会にご出席されましたがその時の印象はいかがでしたか。

会長 昨年の全国大会は、栃木県の宇都宮市で開催され出席しましたが、全国の法人会から1,900名もの多くの方が集まって、講演会、税制改正提言、税務教育事例の発表などが行われました。そのあとの各法人会との懇談会にも参加したわけですが、つくづく法人会は皆さんの真剣さや熱意に支えられたボランティア精神で成り立っているのだなと強く感じました。

もう一つ印象に残ったことがあります。全国大会が終わって、それだけの大人数が一度に会場から出てきたわけです。タクシー待ちは長蛇の列、バスもなかなか来ない。結果としては待っているより歩いて行った方が早かった位でした。30分位待っていましたが、駅行きのバスが来て、そちらの方が早そうと思い乗ったわけですが、これが市内循環バスでして、車で10分位のところ30分かかりました。おかげで車中から宇都宮中心地の観光ができたというおまけがありました。たまたま、懇談会で隣り合わせたのが甲府法人会の方達で、親しくお話しさせていただいたのですが、署長のお話しをお聞かして甲府とは縁があると思いました。いずれにしてもこういう大会に臨んで、改めて法人会組織の強さや存在意義を感じた貴重な経験でした。

司会 昨年の上野法人会の活動、講演会などで印象に残ったことはございますか。

会長 講演会では、通常総会時に「杉尾秀哉氏」をお招きしました。TBSテレビ報道局の方で、とても明瞭でかつ分かりやすい語り口で、報道の裏側もお聞かせいただき評判も良かったです。浅草法人会と協賛の大型講演会では一昨年の浅草法人会担当の「デーモン閣下講演会」に続いて、昨年は上野法人会担当で「金田一秀徳氏」をお招きし、「子どもに伝えたい言葉の魅力」というテーマで講演いただきました。私は、秀徳氏の祖父の金田一京助氏の辞書で育った人間なのですが、お孫さんの秀徳氏があんなにユーモアがある方とは思いませんでした。お話しに聞き入って、あっという間に1時間半が過ぎたという印象でした。

また、青年部主催の講演会では、パーティシエの辻口博啓氏をお招きして講演会を開催しました。委員会や部会の皆さんが本当に一生懸命に協力していただき立派な講演会が開催できたなという思いです。

11月には税務署と税務六団体の方々が参加し「上野公園クイズラリー」を実施しました。署長、副署長も税のパンフレット配りに参加されていました。一昨年の時も感じましたが、税のパンフレットを受け取ってもらうのがなかなか大変で10人に1人位です。それでも、パンダのぬいぐるみに近寄った親子連れの方をうまくクイズラリーに誘導でき、パンフレットも配れました。上野法人会からは女性部会・青年部会の方々に参加いただき感謝しています。



10/16 法人会全国大会「栃木大会」にて



杉尾秀哉氏
(5/21 通常総会)

金田一秀徳氏
(11/14 大型講演会)



11/8開催
「税金クイズラリー」
署長と会長も活躍
されていました

趣味について



司会 最近関心を持たれていることはございますか。

会長 今の趣味は読書です。「池波正太郎」に始まって、「藤沢周平」の本は全部読みました。1年位前からは「浅田次郎」や「加藤廣」「葉室麟」などの本をよく読んでいます。仕事が忙しく日中読むことは出来ないで、土日にテレビも殆ど見ず読書に励んでいます。また、運動もしなければいけないと思いを動かしているのですが、昨年のお話でもお話ししたように、どうもやり過ぎるきらいがあり、医者に怒られながらも控え目に行っています。(笑)

司会 小林署長は、健康のためにされていることなどございますか。

署長 昔から体を動かすことが好きで、運動しなければと常々思っているのですがなかなか時間がとれません。それでも、最近は朝起きてすぐにラジオ体操をしたり、署の若い職員と一緒にバドミントンなどをやっています。しばらく、運動から遠ざかっていたので練習の翌日あたり体が痛くて大変です。それでも、体を動かしていると気持ちが前向きになりますし、気持ちだけでも若返るような気がします。また、温泉が好きで、山梨にいた頃には毎週行っていました。「信玄の隠し湯」などにも行きましたが、そういうところは、パワースポットにもなっていて元気がもらえる気がしますね。最近、家の近くに天然温泉を見つけまして週末によく行っています。

会長 入浴は血圧によいと言われます。私はサウナが好きで運動のあとサウナに入りますが、翌日血圧を測ると間違いなく血圧が下がっています。入浴効果はあるんですね。

署長 温泉も地域によって温度が違いますね。長野県の北部、飯山とか湯田中は熱い温泉が多いですね。熱いのでうめて入るわけですが、山梨県の湯はぬるいので沸かしています。冷たい温泉というものがあって長い時間入ってられるという利点があります。

司会 ご趣味についてお聞きしたいのですが。

署長 録画した映画を休日に見ています。年末には、高倉健さんの映画をたくさん観ました。晩年の頃の作品が好きで「駅」「あ・うん」「ホタル」「あなたへ」など義理・人情や男気が感じられる作品が好きです。

それから、先ほどもお話ししましたが、お酒に関係した仕事をしてきたこともあって、国産酒類の振興ですね。海外に誇れる日本文化の一つとして、日本酒や日本産ワインの魅力を若い人達にも伝えたいと思っています。また、海外からお見えになった方には、是非日本のものを是非召し上がっていただきたいですね。

会長 お酒といえば、お酒の飲み方にもマナーが大切で、一気に飲みの様な響(ひんしゆく)を買う飲み方はいけないと思います。飲み放題だからといって飲みすぎて醜態を見せるのはいいかかと思えます。「たしなむ」という姿勢が必要なのではないでしょうか。酒席でもてなし方も教えなければならぬのでは。

私達は明治の親に教育された先輩たちに教えられてきました。これからは、先輩が若い人たちに教えていかなければならないのではないかと思います。

～新春対談～

署長 確かに職場でも酒席でのマナーや飲み方を知らない人が多くなったように思います。

最後に…

司会 小林署長より「e-Tax」についてお聞きしたいのですが。

署長 「e-Tax」については皆さんにご協力いただき徐々に利用率が上がってきています。しかし、東京局は全国でも利用割合が低く、東京上野はその中でも下位のほうなので是非皆様にご利用いただきたいと思います。

法人会の皆様には法人税に限らず、個人の確定申告でも是非「e-Tax」をお願いしたいと思います。国税庁ホームページの確定申告コーナーは最近とても使い易くなっています。是非ご利用をお願い致します。

司会 最後に、小林会長に今年の景気見通しについてお聞きしたいのですが。

会長 今年は、消費も回復基調にあるのではないかと思います。但し相変わらず、従業員20名以下の小規模企業においては、まだ景気が良くなったという実感が無いのが現実でしょう。私どもの業界の統計資料でもそういう結果が出ています。但し同じ業種でも規模によって、例えば従業員50名以上のところは水面よりプラスになってきています。EUと中国の景気にもよりますが、日本の輸出産業が中心となって経済全体を引っ張っていただけるのではないのでしょうか。また、今年の4月の春闘でどれ位賃上げをできる企業が多いかも消費の動向を左右する大きな要素であると思います。おそらく、今年の3月期決算では上場企業の8割方は相当良い数字が出てくると思いますので、そういった点では、前向きな回答が出てくるのではと思っています。

昨年4月の消費税引き上げから消費が落ち、景気が弱い動きとなりましたが、今年は1月～3月、4月～6月ともまずまず良いのではと思っています。そして、アメリカの景気が更に回復し、金利の引き上げ時期がいつになるかによって株価は変動するかもしれませんが、EUは金利引き下げをせざるをえないだろうということを考えると、我々としてはそれほど急激な景気の低下はないだろうと思います。総体的には、まずまず緩やかに回復基調になっていくのではないだろうかとと思っています。

司会 本日はお忙しいなか、長時間にわたりいろいろとお話しいただきまして有難うございました。本年もよろしくお願い致します。



平成26年度 当会受彰者ご披露

東京上野税務署
納税表彰受彰者

平成26年11月11日(火) 15:30～ 東天紅平成ホール

台東都税事務所
都税功労者感謝状

平成26年11月5日(水) 14:00～
台東区立寿区民館

受彰 小林 一雄氏



署長表彰



笠原 重厚氏



尾高 光寛氏



常見 英彦氏



吉田 邦江氏



宮澤 利一氏

署長感謝状

第3回理事会

平成26年12月17日(水) 17:00～
上野精養軒

第3回理事会は、理事49名中、出席者30名で過半数を超え、理事会が成立しますという発表後、議事が進行されました。

委員会、部会活動報告をそれぞれ発表していただいた後、今後の予定等が話し合われました。



▲小林会長



第5回総務委員会

平成26年12月8日(月)11:00～
朝日信用金庫西町ビル4階

総務委員会(石本委員長)が開催され、「第3回理事会」の議案等について話し合われました。



第3回社会貢献委員会

平成26年11月13日(木)11:30～
朝日信用金庫西町ビル4階

社会貢献委員会(木村委員長)が開催され、「緊急時支援エントリーシート」、歴史講演会等について話し合われました。



税を考える週間協賛事業

平成26年11月14日(金)
17:00～東天紅「平成ホール」

公益社団法人上野法人会
公益社団法人浅草法人会 共催

金田一秀穂氏大型講演会

子どもに伝えたい言葉の魅力
～世界一受けたい心地よい日本語授業～



金田一秀穂氏▶

今年度の税を考える週間協賛「大型講演会」は、言語学者の金田一秀穂氏をお招きして、「子どもに伝えたい言葉の魅力」というテーマで講演して頂きました。日本語の第一人者として言葉の魅力を知り尽くした金田一先生のお話は大変興味深い内容のためになり、なかつユーモアを交えた軽妙な語り口は聴衆を飽かさせず、会場には絶えず笑いが沸き起こっていました。



入場者歓迎演奏会として講演会前に朝日信用金庫上野支店・支店長沼田明広氏にピオラ演奏をして頂きました。

女性部会 社会貢献活動



ご協力ありがとうございました

税金クイズラリー

平成26年11月8日(土) 10:00～恩賜上野公園ポケットパーク



第18回 会員限定 法人会寄席の鈴木

～笑って、笑って、商売繁盛～

平成26年11月7日(金) 18:00～
鈴木演芸場



上野法人会 女性部会
秋の1泊 管外研修会

伊豆修善寺

平成 26 年
10 月 23 日 ~ 24 日
(木・金)

~ 葦山史跡の散策と淡島ホテルで優雅なひと時 ~

女性部会(吉田部会長)では、10月23~24日に修善寺へ行きました。小雨のなか出発し、割烹沼津「ぼんどー」にて昼食のあと、葦山史跡の反射炉と江川邸をガイドの説明を聞きながら見学。丁度雨も上がり、一同の心がけの良いことが証明されました。反射炉は幕末に作られた金属を溶かし大砲を鑄造する施設で、稼働した反射炉が現存するのはここだけ、平成25年に世界遺産国内推薦資産に決定しました。そして、国の重要文化財に指定された江川邸はとて広く、見学時間が短く感じられました。知ってはいても見学する機会がなかったと好評で皆様熱心に見学されていました。



▲ぼんどーにて昼食

宿は、創業約360年の老舗旅館。湯回廊の名の通り、大浴場、露天風呂、4つの貸切風呂が揃い、館内で湯めぐり気分を味わえます。夕食前には、修善寺の町を散策したり、温泉で疲れを癒したり、各自で自由に過ごしました。夕食では、1人ずつ好みに合わせて料理を選ぶ「趣肴会席」に皆様満面の笑み。

修善寺



▲挨拶
吉田部会長

▲反射炉



▲乾杯
森重副会長



淡島

2日目は快晴で気持ちの良いお天気の中淡島へ。船で渡るとすぐ、あしかのショーを見学。場所を少し移動して今度はいるかのショーと楽しみました。きれいな景色と澄んだ空気の中歩を進め、淡島ホテルへ。海を眺めながら豪華なランチに舌鼓を打ち楽しい会話と相まって時間を忘れるようでした。食事の後、希望者には特別にリニューアル後の部屋を説明付で見学させて頂きました。帰りの船の中では、皆で楽しく歌を歌っていると富士山が顔を出し、終わりよければ…と幸せな気分で帰途に向かいました。



女性部会 暮れの懇親会

平成 26 年
12 月 9 日 (火)
18:00 ~

水月ホテル鷗外荘 富士の間

女性部会(吉田部会長)では、『暮れの懇親会』を森鷗外縁の宿、水月ホテル鷗外荘にて開催しました。風が冷たく寒い中、大勢の皆様にお集まりいただきました。

吉田部会長の「1年間ご協力有難うございました」の感謝の挨拶、井田顧問の乾杯で始まり、最後の中立副部会長の終わりの言葉まで、大いに笑い美味しいお料理を沢山いただき、楽しいひと時親睦をはかることができました。



▲吉田部会長



▲終わりの挨拶
中立副部会長



▲乾杯
井田顧問



▲司会
尾高副部会長



女性部会 平成26年12月9日(火) 17:00~ 第4回幹事会

平成26年12月9日(火)
17:00 ~

水月ホテル鷗外荘 富士の間

女性部会(吉田部会長)では、幹事会を開催し、今年度より実施の「税に関する絵はがきコンクール」を中心に話し合いが行われました。



青年部会報告

「税金ジュニアスクール」

今年で11回目となる青年部会（常見英彦部会長）主催「税金ジュニアスクール」は今年度も東京上野税務署管内全校（8校）で実施します。11月に谷中小学校、12月に忍岡小学校・平成小学校・黒門小学校・大正小学校で開催し、1月に根岸小学校・金曾木小学校、2月に東泉小学校での開催を予定しています。

谷中小学校 平成26年11月26日（水）
10:40～11:25



忍岡小学校 平成26年12月5日（金）
10:45～11:30



平成小学校 平成26年12月10日（水）
11:30～12:15



黒門小学校 平成26年12月16日（火）
10:40～11:25



大正小学校 平成26年12月19日（金）
13:40～14:25



第4回役員会 [と き]平成26年11月7日（金）12:00～
[と ころ]朝日信用金庫西町ビル7階



役員会では、税金ジュニアスクール等について話し合いました。

全法連主催 第28回法人会全国青年の集い 秋田大会



13:15~15:00 大会式典 15:30~16:40 記念講演
【演題】『リーダーはいかにあるべきか～
ユタカナ国・美しい心をつなぐために～』
【講師】橋本 五郎氏（読売新聞特別編集委員）

いつの間にか吐息が白くなる頃となり、温かい鍋が恋しくなり始めた11月21日、「第28回法人会全国青年の集い秋田大会」が開会されました。普段より常見部会長のもとで法人会の活動に興味、理解をもっている上野法人会青年部会の役員、会員、総勢18名での参加となりました。

まずは新幹線で秋田駅に到着後、秋田名物稲庭うどんで有名な寛文五年堂で昼食をとり旅の疲れを癒した後、部会長サミットの為、一日早く到着した常見部会長と合流し大会会場へ向かいました。大会は全国の法人会青年部会員2,000人以上が出席している事もあって、とても活気があり会場も混雑しておりましたが、真面目な当会青年部会は会場前列の方に陣取り開会を待ちました。国歌斉唱に続き次第にそって大会が進められていきます。全法連青年部会連絡協議会盛永会長の挨拶の中で、租税教育を通しての社会貢献に対する熱い思いを聞き、大会後すぐに谷中小学校から始まる東京上野税務署管内全8校での租税教室の大切さ、責任の重さをあらためて感じます。参加された役員、会員も気合が入ったことでしょう。

その後、各表彰が終わり租税教育活動プレゼンテーションの最優秀会、山口県徳山周南法人会青年部会の発表が行われました。テーマは「子供の夢と主体性の育む町作り」。当会がモデルとしている東京立川法人会方式とまったく違い、子供たちに日本国民三大義務の「勤労」「教育」「納税」を自然に楽しみながら学んでもらうものでした。教育に関しては小学生が対象なので言うまでも無いのですが、「勤労」「納税」は普段子供たちの生活の中に無く、考えたり感じたりする機会が少ないものです。それをうまく地元商店街の協力で豊洲にあるキザニアをモデルに、一日子供が主役の商店街を作るというものでした。子供たちはまずハローワークで仕事を探し労働して報酬をもらい、商店街で買い物をするという流れです。報酬と一緒に給与明細をもらい、そこで所得税が引かれ、買い物の際に消費税を勉強する。全国で行われている租税教育だけあって、それぞれの工夫があり努力されているのがわかりました。

続いて大会宣言のスローガンでもある「ユタカナ国へ あきた美じょん」の説明があり、「ユタカナ国」とは豊富な経験を持った高齢者が生き生きと暮らし、青年世代がたくましく働き、子供たちの可能性を最大限引き出した国という事でした。次回開催茨城県のPRもかなり気合の入ったユニークなもので177名もの青年部会員は圧巻でした。

大会式典後の記念講演の講師は読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏で、「ジパングあさ6」、「ズームイン!!」などキャスター・コメンテーター

としてテレビでも活躍でわかりやすい解説には定評があるそうです。著書も多数出版されており、今の政治についてどんな感想をお持ちなのか、ちょうど衆院解散の日だったのでどんな事を話されるのか興味津々で聞かせていただきました。演題は「リーダーはいかにあるべきか～ユタカナ国・美しい心をつなぐために～」です。やはり冒頭は衆院解散のことでした。国論を二分する事を多数してきた政権に対し選挙で政権選択するチャンスという事でした。その後、「総理の器量」という本をお書きになっているので総理（トップ）のあり方はこうであるべきだというお話でした。ここで聞いているほとんどの方たちも大小はあると思いますが会社でトップやトップになる方たちなので、どのような感想を持たれたか……。トップである以上自分の不利益になる決断でも前進するためにしなくてはいけないときがある。民主党政権時代の野田前総理は消費税引き上げを決断し、その後の選挙で負けることが分かっている中、負ければ責任を負わなくてはいけない。それでも解散した時の事などを例に出されていました。自分自身を振り返り大きく心に響く言葉でした。

講演も終わりホテルへ戻り一休み。夕食は料亭濱乃家でした。創業大正7年95年の歴史を刻んだ建物は威厳と風格があり、地元の食材にこだわり昔ながらの伝統技法で作られるきりたんぽは本当に美味しかったです。



翌朝は8時半にバスへ乗り込み観光スタート。まず初めに乳頭温泉郷秘湯鶴の湯温泉を目指します。鶴の湯温泉は乳頭温泉郷の中でも最も古く寛永15年（1638年）からの記録が残っているそうです。現代的に整備された温泉ではなく小屋と言ったような中に風呂があり外には混浴露天風呂あります。乳白色の温泉で昨日の疲れを歴史ある秘湯で癒す贅沢な時間を過ごした後、昼食は別館へ移動し、囲炉裏を囲み山菜料理と神代産の山の芋の鍋をいただきました。名物らしくとてもやさしい味付けで美味しくいただきました。次に日本一深い湖、田沢湖へ到着。半周湖畔をバスで回り景色を楽しみ、辰子像でバスを降り湖畔を散策しました。その後バスは角館へ向かい武家屋敷見学です。資料館で歴史と伝統工芸の皮製品の作業を見て手作業のすばらしさを感じました。武家屋敷の石黒家も見学し今も当主が生活をしているということにびっくりしました。

日も暮れ角館駅より新幹線で上野駅に向かいました。列車内でも二日間を振り返り話も弾み、あっという間に上野駅に着いた気がします。秋田大会に参加させていただき、法人会の理念やあるべき姿を再確認出来、参加された部会員の皆様もこれから始まる租税教室に真摯に向き合えるのではないかと思います。参加された皆様、本当にお疲れ様でした。次回、茨城大会も必ず良い大会になるものと確信し、ご報告の文章とさせていただきます。

<文・青年部会長澤幹事、写真・須賀副部長>

「夢を叶えるために」

～夢を持ち続けることの大切さ～

【日 時】平成 26 年 11 月 25 日 (火) 18:30 ~

【と ころ】朝日信用金庫西町ビル7階

＜講師＞ ツングチ ヒロノブ
辻口 博啓氏



今回の上野法人会青年セミナーは、パティシエの辻口博啓先生をお招きし「夢を叶えるために～夢を持ち続けることの大切さ～」と題して行われました。日本を代表するパティシエである辻口先生の講演とあり、今回は特に女性の参加者も多く注目度の高いセミナーとなりました。

先に辻口先生のプロフィールを紹介させていただきます。

1967年 石川県生まれ。クープ・ド・モンドをはじめ世界大会に日本代表として出場し、数々の優勝経験を持つ。昨年パリで行われた世界最大のチョコレート祭典「サロン・デュ・ショコラ2013」にて最高評価「5つ星+星」を獲得。モンサンクレール(東京・自由が丘)をはじめ、コンセプトの異なる12ブランドを展開。各店舗の製造・運営の他、企業とのコラボレーションやプロデュース、講演や著書出版など積極的に活動。素材にこだわり、スイーツを使った地域振興や、ベトナムに所有する農薬無散布の茶畑から収穫されたお茶を用いて商品開発などを行う。また、食育や健康を考慮したスイーツの創作にも意欲をみせる。お菓子教室「SUPER SWEETS SCHOOL自由が丘校」、後進育成のための「スーパースイーツ製菓専門学校」(石川県)両校の校長を務める。一般社団法人日本スイーツ協会代表理事を務め、スイーツを日本の文化にすべく、「スイーツ検定」など実施。石川県観光大使。三重県観光大使。金沢大学非常勤講師。産業能率大学客員教授。
(※辻口博啓 official webより引用)

父親の経営する和菓子屋「紅屋」の長男として生まれた辻口先生ですが、パティシエを目指すきっかけとなったのが、小学校3年生の時に友人のバースデーパーティで食べたショートケーキなのだそうです。ここからパティシエを目指す決心に決めたとの事ですが、9歳の子どもにそこまで思わせるショートケーキ。どんなケーキだったのでしょうか。和菓子は作る工程で「空気を抜く作業を繰り返す」洋菓子は「空気を取り込む作業を繰り返す」同じ菓子でありながら全く相反する工程で作られるというお話は、なるほど唸りました。和菓子と洋菓子、主たる材料が違うだけかな？と素人考えで思っていたのですが、基本的なアプローチの仕方からして違うんですね。



高校卒業後上京し、パティスリーで修業する傍ら、実家の倒産で多大な借金を負いながらもコンクールで優勝することを目指し日々の努力を惜しまなかった結果が、23歳で全国洋菓子技術コンクールに当時最年少で優勝という結果になったのですが、言葉にするのは簡単ですが先生が行ってきた行動はどれも簡単に「やってみよう」と思える物ではありませんでした。

例えば休みの日にはありとあらゆる売れているケーキ屋に通い、店の裏に回ってゴミ箱をチェックしそのお店がどんな素材を使っているか、どこから仕入れた物を使用しているかなども調べ、研究する。これだけでもなかなか実行できるものではないと思いました。

仕事は朝6時から、夜12時近くまでほぼ休み無く働き、その間真剣に素材に触れあっている自分をしっかり持つ、そして自分がどうい目標を持って生きるのかということに拘りを持つ。これが辻口先生のベースなのでしょう。

23歳でチャンピオンとなった洋菓子技術コンクールはその後6連覇するに至るのですが、毎年毎年、昨年優勝した自分の作品のテイストを壊し、全く新しい物を作り続ける。これだけでも凄い事ですが、先生はさらに審査員の好みや流行の様な物にも常に自分なりの仮説を立てながら、審査委員のコメントに対するマーケティングを考えながらその需要に対する作品を落とし込んでいく。これを繰り返した結果との事でした。

職人のコンクールと言えば、技術を駆使した作品を作れた人が一番と思いがちですが、辻口先生の場合は技術は当然の物として、さらに踏み込んでどういった物が顧客(審査員)の心を掴むのかといった所まで徹底的に考えているのです。

こういった、辻口先生自身のビジョンとお客様のニーズを読む姿勢、そして確かな技術が相まって自由が丘の「モンサンクレール」は繁盛を続けているのだと思いました。

「モンサンクレール」のオープン以降も、辻口先生は様々な地域や業種ともコラボレーションしながらオリジナルブランドを次々と立ち上げられてます。

和菓子と洋菓子の融合した形でもある「和楽紅屋」などは先生のルーツでもある和菓子を世界に発信していきたいという思いが込められているそうです。



私自身、洋食屋を営んでおり食事とスイーツの違いはあれど「和洋折衷」という概念は通じるところがあるかな？などと勝手に共感しておりました。

また辻口先生は洋菓子の新規ブランドだけでなくとどまらず、スイーツ専門学校の創設や、日本スイーツ協会の設立、スイーツコンシェルジュの資格検定を設立するなどその活躍は一パティシエの枠を大きく越えたレベルの物です。

これ程までに様々な事業を短期間にこなしていくそのモチベーションの原点は、食のブランディングの確立をすること、それを世界に発信していくことだそうです。

日本にも、世界に通用する、世界で一流と言われる職人に負けない人がたくさんいるにもかかわらず、その人たちが注目される機会が今の日本にはあまりに少ないという現実。これが非常に残念で勿体ないので何とかしたい。その想いの強さは今回の講演からも熱く伝わってきました。

余談ではありますが、来年のNHK朝の連続テレビ小説の「まれ」は辻口先生の故郷の能登からパティシエを目指す女性の物語で、製菓指導を担当されているそうです。今回の講演を聞いた上で番組を見ると、似たエピソードがあるかもしれないので、また違った見方が出来て楽しめるのではと思っています。

＜文 須賀青年副会長＞

江戸の町

【日時】 平成26年11月18日(火) 18:00~19:30

【場所】 朝日信用金庫西町ビル7階

今回は、徳川家康が入ってから江戸の町がどう変わっていったかを中心にお話してみたいと思います。

＜家康入府時代の江戸の町＞

家康が江戸に入ったのは1590年(天正18年)といわれます。この年は秀吉が小田原の北条氏を攻めた年であり、家康もこの陣中に参加していました。この時、秀吉は陣中において、家康に駿遠の代わりに関八州を領地にする「国替え」を命じています。当然、徳川家の家臣からは激しい反対があるなか家康は考えるところがあり、あえてその命を受入れることとしました。では、その頃の江戸の町はどういうところであったかといえますと、今から15年位前までの説では、江戸は「一寒村」に過ぎなかったと言われていましたが、その後、もう少し開けていた場所ではないかということがいわれています。古くからの「江戸湊」という名前があります。また、浅草は中世には源頼朝が安房から出て武蔵に向かった時に、江戸の地名の由来となった「江戸太郎重長」という人が浅草の橋場で頼朝を迎い入れた記録もあります。そこから、それほどの未開の土地ではなかったであろうと想像されます。また、最近の研究では隅田川のところが一種の物資の集散地となっていたということも分かっています。最初に「寛永通宝」を鑄造する鑄銭所を作ったのも橋場でした。家康はそういった場所に本拠地を定めたわけです。江戸は全くの未開地ではなかったといいましたが、常識的に考え、当時の関八州のなかで本拠地として一番妥当といえるのは小田原であり、また、家康が最も尊敬していた武將が源頼朝であることから、その本拠であった鎌倉という選択もあったでしょう。しかしながらその選択を捨てあえて、江戸を本拠地に定めたのはこれからお話しますが、ある意味、家康はたいへんな先見性を持った人物であったといえるのです。

＜五つの台地＞

当時の江戸は江戸湾に向かって5つの台地がせり出していました。「品川・高輪の台地」・「麻布・飯倉の台地」・「桜田・平河の台地」・「神田・本郷の台地」・「上野・谷中・王子に至る台地」の五つです。そして、今の皇居(江戸城)のあたりはどうだったかという、既に中世末、太田道灌が「静勝軒」という館を構えていたという場所でした。太田家は鎌倉の上杉の系統であり、鎌倉の権力がここまで及んでいたということになります。その跡地を家康が本拠地に定めたのです。



家康は江戸城の東に広がる湿地帯をこの神田などの台地の土を利用し、湿地帯を埋め立てて水路を築いていきました。



講師

東叡山寛永寺 長臈 浦井正明先生

＜水路の価値＞

当時は、「物は水で動く」時代であり、明治20年頃までは「物は水路、人は道を行く」と言われていました。今は小江戸といわれている川越ですが、当時、川越は江戸から近い割には歩いていくには不便な場所でした。しかし、近くを「新河岸川」という川が流れていて、物を筏や船などに乗せて運べば江戸まで半日あれば運ぶことができました。鎌倉街道にも面していることもありましたが川越が要衝地であったのはこの「水利」があったからだといえるのです。実は江戸城を築いている石垣、寛永寺や増上寺の徳川家のお墓・霊廟に使われている石材の殆どが伊豆の稲取などの石でした。山から切り出した大石を海岸から筏で吊下げ江戸まで持ってきたわけで、そういう面からも水路は非常に大事なものであったといえるでしょう。また、上野の東照宮にある大きな石の鳥居は吉宗の時に再建したのですが、その石は遙か南海上より運んだものと記されています。家康は水路の重要性を十分承知していたのです。初めに「水で物を運ぶ＝水路」を念頭に江戸の町を計画的に作っており、水路でどこでも行けるようにしたのです。江戸を選んだ家康の先見性はそこにあったといえるでしょう。



＜江戸の町数と町並み＞

江戸の町がどのように発展していったかをお話します。江戸と言えば、「八百八町」ということがすぐに思い浮かぶと思いますが、江戸後期の町数はどれ位あったかという、「八百八町」より多かったのです。明治になっての「旧15区」、台東区は「下谷区と浅草区」文京区は「小石川区と本郷区」のように分かれていた時代と江戸もその範囲を超えてはいなかったのです。江戸はかなり狭いところであり、例えば今の文京区役所は江戸市中には含まれていなかったのです。その範囲の中に1,500の町があったといわれていますが、実際は天保の記録では1,631もあったとあります。町の一つずつは本当に小さく、大名屋敷一つが町になっていたほどなのです。しかしながら、江戸の区画は実に計画的に作られていて、「銀座八丁」には今も江戸の区割りが残されています。江戸の町の範囲は、「朱引」というもので表わされていました。この「朱引」で囲った地域が文化文政時代以降の江戸の町になるのですが、とても狭い範囲であり、上野・浅草・本郷が「朱引」の中に入るのは文化文政以降となります。それが「旧15区」といわれるものです。「朱引」より更に狭い地域を「黒引」といい、寺社奉行の支配地であり、「朱引」は町奉行の支配地ということになっていました。

＜江戸の人口と世界の人口＞

江戸の町にどれ位の人が住んでいたかという、家康が江戸に入府した1590年には、1万人もいませんでした。おそらく数千人があつたろうと思いますが、それから20年弱後の1609年の人口が分かっていて、15万人となっています。それが、1720年(享保5年)、吉宗の時代には江戸の人口は一気に100万人を超えています。急増しているのです。では、そのまま人口が増え続けていたかという、1840年頃の江戸の人口は130万人に留まっています。増加の状況からみると、江戸時代も、享保の時代には既に江戸の町がほぼ完成していたといえるわけです。以降は緩やかな増加を辿っているのです。1720年(享保5年)の人口100万人をもって、「江戸は世界一の大都市」になったといわれています。当時の日本の人口が約1,000万人とすると1割の人間が江戸に住んでいたことになります。ちなみに大坂50万人、京都30万人とされており、上方の人口が増えたのは「元禄の時代」までということが考えられます。それでは、外国はどうであったか調べてみようと思い、旧知の高階先生にお尋ねしました。パリやロンドンが100万人になったのはいつ頃ですかとの質問に対して、パリは1800年代の半ば頃、ロンドンは1800年代末頃に100万人になっているとの回答いただきました。1720年に江戸が人口世界一の都市であったことを確信いたしました。江戸時代には、江戸の土地の69%が武家地で、15%が寺社、残りの16%の町場に50万人の町人が住んでいました。今、東京は過密都市といわれていますが、江戸もたいへんな過密都市でした。そういう事情から「長屋」という住環境が発達したのです。武家は江戸に住んでいる江戸家老、家臣、その家族以外は参勤交代で国元からやってきます。加賀の前田家の場合には4,000人も人が江戸にやってきたのです。それだけの人が移動するのです。当然、宿場町は大いに潤います。経済の活性化に繋がりました。また、地方の文化が江戸にもたらされ、江戸の文化が地方に伝播される。いわば文化交流の機会でありました。参勤交代は悪くとられることもありました。こういう功績もあったのです。大移動を伴う参勤交代は人口への影響が大きいため、幕府も参勤交代期間を調整しながら一定の人口水準を保っていたのです。

＜江戸と上方—その経済と文化＞

文化の面をお話しすると、元禄時代は大坂・京都を中心とした上方の文化でした。「井原西鶴」「近松門左衛門」「松尾芭蕉」等の名前が挙げられますが、その人たちはみな関西の人達なのです。関西の人が関西で形成した文化、それが元禄の文化だったのです。ところが、江戸の後期、文化文政に江戸文化がおこった時代を考えてみますと、「三島自寛」「古賀精里」「文晁」にしても「大田蜀山人」にしても少し下がった時代の「伊能忠敬」にしても江戸の人達でした。江戸の文化の代表的なものに「浮世絵」がありますが、作者の「歌川広重」は幕臣であり、「大田蜀山人」もやはり幕臣です。それに対して「文晁」や「歌麿」「北斎」は幕臣ではありませんでした。そういった人達と一緒に一つの文化を作ったのです。これは関西にない文化といえるでしょう。江戸の人達は身分を超えた文化を作ったのが特徴といえます。そこには大名も入ってきます。例えば「松平定信」などや「細川重賢」など有名な人もいました。江戸文化を代表するような人達には、幕臣も町人も大名もいたわけですね。では、元禄と江戸の文化

の移り変わりはいつ頃であったかという、宝暦という吉宗最後のとき1750年頃ではないかと考えられます。今は「出版は文化のバロメーター」といわれていますが、その当時は「地本問屋」というのが出版業であり、その数が上方よりも江戸が上回ったと時期というのが宝暦なのです。

ただ、地本問屋が増えたからと、すぐに文化が移ったかというそうはいかず、天明という1700年代末までの時間をかけ江戸が上方を凌ぐようになったと考えるほうが妥当であろうという説があります。



＜江戸の町は男性社会＞

江戸の町は「男性社会と武家の町」といえます。江戸は男中心の町であり、実際に江戸の初期は圧倒的に男性の数が多かったのです。江戸の最後の時期になりようやく男女の比率が同じとなりました。江戸に吉原という花街がありました。大名の江戸の留守居役同士において、幕府の目からのがれて打合せを行える貴重な場所として利用されていました。また、言葉・化粧・着物などの流行の発信地でもあったことが知られています。先ほどお話したように、武家が占める地域の割合や経済への影響度から「江戸は武家の町」ということもいえるでしょう。現に、明治になり40万人まで人口が減少したのは、参勤交代がなくなり武士が国元に戻ったこと、それにつれ商人も国元に戻っていったことが大きかったのです。

＜江戸から東京へ＞

明治21年までは「東京(とうけい)」時代と言われていました。21年から22年にかけて「東京(とうきょう)」時代になったという説があります。江戸から東京になるまでのつなぎの時代があってそれが「東京(とうけい)」というのです。その東京の21年の人口は江戸の天保の人口に戻っています。明治22年には国会が開設され憲法ができ、明治政府がようやく安定し、それから先を東京と呼んでよいと思います。明治39年になると人口も200万人となり完全に江戸時代から脱却し、東京時代となったのです。一方で、明治30年代になると「江戸への回帰の風潮」が起こってきます。江戸時代のことがいろいろ調べられて記録され、伝えられてきたのです。明治政府は薩摩と長州、あとは土佐と肥前がありますが出遅れてしまい、明治政府の中枢には就けませんでした。肥前は大隈重信が初めて首相になったくらいでした。薩摩は西郷さんで足元が崩れてしまい、結局、明治以降の総理大臣を探すも長州ばかりで、政治的には長州勢の1人勝ちといえるでしょう。土佐も人材はいましたが政治の中枢には入れませんでした。明治政府の実務は幕臣がいなければ成り立たず、明治政府は必ずしも人材が豊富なわけではなかったのです。肥前の出で江藤新平という有能な人材がいましたが、政府のなかで活かされることはありませんでした。西郷は幕末の偉大な人でしたが、明治になってからは、大久保利通という人物がいて、あまり人気のない人でしたが、大久保利通が引いた路線が明治20年代から30年代まで明治の根幹の流れを作った大変有能な人物でした。

明治のお話はここまでとして本日のお話を終えたいと思います。

長時間にわたり、江戸から明治まで盛りだくさんの興味深いお話をいただき有難うございました。

各支部において支部役員会議が開催され、今年度の会員増強を中心に話し合われました。研修会では東京上野税務署法人課税第一部門幾世橋上席国税調査官に「平成26年度法人税制の改正について」をお話いただきました。

竹町支部 <熊倉支部長>



平成26年11月12日(水) 台東地区センター

東上野支部 <尾高支部長>



平成26年11月17日(月) 東上野地区センター

上野支部 <土肥支部長>



平成26年11月19日(水) 上野地区センター

入谷支部 <服部支部長>



平成26年11月21日(金) 宮川

金杉支部 <石原支部長>



平成26年11月27日(木) 金杉区民館

谷中支部 <吉田支部長>



平成26年12月10日(水) 山ぎし



▲幾世橋上席国税調査官

竹町支部

竹町支部 (熊倉支部長)

【親子バスハイク】



平成26年10月26日(日) 鉄道博物館及び川越
鉄道博物館で鉄道模型のジオラマ見学等を行った後、川越で芋ほりをしました。

【竹町地区コミュニティ祭り】



平成26年11月9日(日) 茨城県笠間市周辺
8年ぶりのバスハイクとしてバス2台で茨城県笠間市に焼き物ツアーに行きました。

竹町南地区

(忍田地区長)

【子供もちつき大会】



平成26年10月25日(土) 金刀比羅神社境内
きなこ、あんこ、大根おろしの三種を参加者に配布し、みんなで美味しくいただきました。

【防災訓練】

竹町中地区 (新井地区長)



平成26年11月1日(土) 竹友会館
上野消防署の協力を得て、煙体験ハウス、AED、消火器等の訓練を行いました。

【お楽しみ縁日】

佐竹地区 (轟地区長)



平成26年11月16日(日) 秋葉神社前
大勢の方が参加し、屋台は長蛇の列で、特に白でついたお餅は大人気でした。

【秋の歩け歩け】

二長町地区 (麻生地区長)



平成26年10月26日(日) 千葉県房総方面
昼食の浜焼き食べ放題、マザー牧場での歩け歩け、みかん狩りを楽しみました。

東上野支部

東上野一丁目地区 (横川地区長)

【もちつき大会】



平成26年12月7日(日) 都民銀行前
絶好のもちつき日和で、上野警察によるオレオレ詐欺防止講話等も行われました。

東上野車坂地区 (尾高地区長)

【軛ファミリークリスマスパーティー】



平成26年12月23日(火祝) グリーンパーク
恒例のお楽しみ会で景品等用意し、税金クイズやフラダンス等で盛り上がりました。

東上野稲神地区 (小竹地区長)

【稲神もちつき大会】



平成26年12月21日(日) 天理教東大教会前庭
町会の老若男女が集い、消防署員の協力のもと、力を合わせて餅つきを行いました。

上野支部

仲徒中地区
(八木地区長)

【もちつき大会】



平成 26 年 12 月 3 日 (水) 台東区上野 5-21

天候にも恵まれ、11時半より配布をし、1時間足らずで全量(約40kg)の配布が終了しました。



入谷支部

根岸二丁目地区 (堀口地区長)

【日帰りの旅】



平成 26 年 11 月 9 日 (日) 伊豆長岡温泉

伊豆長岡温泉で昼食と入浴後、文化財の楽寿園で菊まつりと紅葉を楽しみました。

【子供餅つき大会】



平成 26 年 12 月 7 日 (日) 根岸二丁目児童遊園

つくたての餅にアンコ、きな粉、のりを付けてみんなで美味しく食べました。

中根岸地区

【子ども餅つき・防災訓練】(竹田地区長)



平成 26 年 12 月 14 日 (日) 御行の松不動尊境内及び防災広場根岸の里

家族連れの参加者で賑わい、子供達も楽しく餅つき、ゲーム、訓練をしていました。

金杉支部

金杉支部
(石原支部長)

【第10回金杉っ子まつり】



平成 26 年 11 月 2 日 (日) 東泉小学校、東盛公園

当日は天候にも恵まれ、ミニSLに家族で何回も乗車するなど、たくさんの笑顔が見られました。

金杉一丁目地区
(鈴木地区長)

【餅つき大会】



平成 26 年 11 月 30 日 (日) 世尊寺前通り

天候に恵まれ楽しい一日を過ごす事が出来ました。例年通り高齢の方にお餅を配り、大変喜ばれました。

下谷東地区 (稲垣地区長)

【女性部メロン狩りツアー】



平成 26 年 10 月 8 日 (水) 栃木県宇都宮市、茨城県桜川市

あしががフラワーパーク見学、桐生織物観光センター視察後、メロン狩りを行いました。

【日帰り旅行会】



平成 26 年 11 月 23 日 (日) ホテル三日月

柿狩り、鴨川ホテル三日月で昼食、入浴、道の港で買物等、楽しい一日でした。

【餅つき大会】



平成 26 年 11 月 30 日 (日) 金杉通りナカヤの横通り

今年は子供の参加も多く、美味しいお餅を食べとても楽しい時間を過ごしました。

竜泉中部地区
(竹谷地区長)

【ハゼ釣り会】



平成 26 年 11 月 9 日 (日) 江戸川河口付近

良型のハゼがたくさん釣れ、あちらこちらで歓声があがっていました。

金杉上町地区 (水野地区長)

【金杉上町会創立100周年記念祝賀会】



平成 26 年 10 月 26 日 (日) 上野精養軒

各代表の祝辞、ご紹介、町会に貢献のあった方への感謝状が贈られました。

【焼きいもクリスマス会】



平成 26 年 12 月 23 日 (火祝) 朝日弁財天境内

年々参加者も増え、焼きいも、豚汁、ゲーム等で大変盛り上がりしました。

税務署からのお知らせ

平成 26 年分
確定申告について

確定申告書作成会場を

平成 27 年 2 月 16 日 (月)

税務署内に開設します。

【開設期間】 平成 27 年 2 月 16 日 (月) ~ 3 月 16 日 (月) まで (土、日を除きます)
《3 月 10 日以降の税務署の窓口は、特に混み合いますので、ご来署はお早めをお願いします。》

【受付時間】 〈受付〉 午前 8 時 30 分から (提出は午後 5 時まで)
〈相談〉 午前 9 時 15 分から午後 5 時まで

- ☆作成会場が混雑している場合は受付を早めに締め切ることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ☆平成 27 年 2 月 13 日 (金) 以前は申告書作成会場がありませんので、長時間お待ちいただく場合があります。
- ☆納税は、振替納税を御利用ください。御利用には「預貯金口座振替依頼書」を、納付期限までに税務署又は金融機関の窓口へ提出していただく必要があります。なお、贈与税には振替納税はありません。
- ☆お車でのご来場はご遠慮ください。

【お問い合わせ先】

東京上野税務署 〒110-8607
台東区池之端 1 - 2 - 22 上野合同庁舎
Tel.03-3821-9001 (代表)

※ ご連絡いただく際は、税務署の電話番号にお架けいただいた後、自動音声案内に従って「2」を選択してください。



国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」で申告書が作成できます!!



申告・納税は、ネットから快適に!

クリック

詳しくは

確定申告

検索

閉庁日の対応について

東京上野税務署では、平成 27 年 2 月 22 日 (日) 及び 3 月 1 日 (日) に、東京国税局合同会場にて確定申告書用紙の配付、申告相談、確定申告書の收受及び納付相談を行います。

※電話による相談、国税の領収及び納税証明書の発行等は行っていません。

※当日は、税務署での執務を行っていませんのでご注意ください。

< 国外財産調書の提出について >

平成 26 年 12 月 31 日において、価額の合計額が 5,000 万円を超える国外財産を有する方は、平成 27 年 3 月 16 日 (月) までに「国外財産調書」を提出しなければなりません。

なお、提出がなかった場合や正しく記載されていない場合には、加算税の加重措置が適用されるほか、罰則が適用される場合がありますのでご注意ください。

2015 新春 税金クイズ

新年あけましておめでとうございます
2015年もクイズにチャレンジ！何問できるかな！



① 平成26年4月、消費税の税率が5%から8%に上がりました。この増えた分の税金の使い道は次のうちどれでしょうか？

- ①健康や生活を守るため
- ②教育や技術の発展のため
- ③公共設備のメンテナンスのため



② 江戸時代には捕鯨にも税金がかけられていた？

- ①○ ②×



③ 環境に悪影響をおよぼすものに税金をかけ、その悪影響をおよぼすものを減らす目的でもうけられた税金が世界にある？

- ①○ ②×



④ 税金をあつかう国、県や市町村などがものを買うときは、消費税を払わなくてもよいことになっている？

- ①○ ②×



⑤ ワインは白ワインより赤ワインの方が税率が高い？

- ①○ ②×



⑥ 国税電子申告・納税システム(e-Tax)のイメージキャラクターである『イータ君』の身長は何センチでしょうか？

- ①165cm ②175cm ③185cm

⑦ 導入された当時「名誉税」とも呼ばれていた税金は次のうちどれでしょうか？

- ①所得税 ②相続税 ③贈与税



⑧ 次のうち、昭和57年まで日本に実際にあった税金は、どれでしょうか？

- ①猫税 ②犬税 ③魚税



⑨ 次のうち、税務署の地図記号はどれでしょうか？

- ① ⊗ ② Y ③ ◇



⑩ ドイツのフランクフルトでは、救急車の利用は有料である？

- ①○ ②×



できたかな？



①健康や生活を守るため
国民の皆さんの健康や生活を守るため使われています(社会保障になります)。病院の診療代金の一部や高齢者の生活のため等私たちが生活の身近なところで使われています。

② 江戸時代には捕鯨にも税金がかけられていて、捕獲方法の難易度によって、税金の負担が異なっていました。もっとも楽な漂着した鯨を止めたときの税率は、33.3%と楽な分、高率になっていました。

③「炭素税」です。スウェーデン・ノルウェー・アイスランド・オランダ等は、すでに二酸化炭素の排出を減らすために「炭素税」をもうけています。フロンガスや二酸化炭素の排出が多くなると、世界的にオゾン層の破壊や地球温暖化など環境破壊がおこります。

④公共機関だからといって、消費税を払わなくてよいということはありません。消費税の非課税、不課税、免税以外は必ず支払うことになっています。

⑤ ワインには赤、白、ロゼなどの種類がありますが、何色であっても税率は同じになります。

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

⑦ 明治20年に導入された所得税は、その当時、年間300円以上の所得がある人が納める税金でした。当時の1円は現在の約2万円です。所得税を納めることは、「お金持ちの証」で、とても名誉なことでした。

⑧ 昭和30年には、全国2,700もの自治体で採用され、昭和57年に長野県四賀村を最後になくなりました。長野県四賀村では、生後3か月以上の犬一頭につき年間300円の犬税がのりしました。

⑨ ⑩

⑩ そろばんの珠の形が由来です。昔はそろばんで税金を計算していました。

⑪ 海外ではむしろ有料の方が多く、「空気が水と救急車はただ同然」という感に注意を！。

表紙 《新春対談》 題字：井田広報委員 揮毫

■平成27年1月発行 ■発行人 広報委員会 委員長 古茂田隆文 ■発行所 公益社団法人上野法人会 (〒110-0015 台東区東上野1-2-1 朝日信用金庫西町ビル5階 TEL5818-1151 FAX5818-1141)



このまちとしあわせに。

10年先も、
その先も。

!! シモセース!!



街の鼓動に敏感です

朝日信用金庫

本店/東京都台東区台東2-8-2 本部/東京都千代田区東神田2-1-2